

第34回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2004年9月7日（火）10:30～11:00
2. 場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者 近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、前田委員
 内閣府
 戸谷参事官（原子力担当）、犬塚参事官補佐
4. 議 題
 (1) 市民参加懇談会開催について
 (2) 平成17年度原子力関係経費概算要求額総表（速報値）について
 (3) その他
5. 配布資料
 資料1 第19回市民参加懇談会コアメンバー会議の結果について
 （座長報告）
 資料2 平成17年度原子力関係経費概算要求額総表について
 資料3 第33回原子力委員会定例会議議事録（案）
 資料4 原子力委員会 新計画策定会議 技術検討小委員会（第4回）
 の開催について
6. 審議事項
 (1) 市民参加懇談会開催について
 標記の件について、犬塚参事官補佐より資料1に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

 （木元委員）市民参加懇談会in福島の場合は、ご発言者が多かったが、公募という形ではなかった。以前、福島の方々にお話をうかがった時に、地元は8ヶ町村の協議会等で決定しているので、8ヶ町村が均等に発言できるようにしたい、というご希望があったので、それぞれの町村とご相談し

ながら10名選ばせていただいた経緯等々があった。形式的には公募ではないけれども、発言者のお言葉は十分にいただけたと思う。原子力委員の方々にもご出席いただいたところだが、同様の形式で今後も開催しようということとなった。

資料1の2.(2)の次回の市民参加懇談会in大阪だが、実は東京では2回開催しているが、大阪では開催していないので次回は大阪と大体決まっていた。しかし、決まってから美浜発電所の事故が起きた。この場合、発言者の方々あるいは集まってくださる方々の中から関西電力の美浜の事故について意見を言いたい、という声が出るのは当然だろうし、事実、そういう声がありご意見もいただいている。そのことは自然体で受け止めて、実は、市民参加懇談会は原子力の研究、開発及び利用に関する長期計画の策定プロセスに皆様方の声を反映するということで、特に今回は「核燃料サイクル政策」を中心にお話をうかがうこととしている。しかしあえて、主題にはしないが、これからご発言者を含めて公募するときに、美浜発電所の事故の教訓を原子力政策にどう生かすべきかについてもご意見があれば寄せていただこうと考えている。10月29日の段階でどういう結果が出ているかわからないが、それはきちんと客観的に報告させていただいて肅々と開催することとしている。

発言者は公募の形式で、8名にする。市民参加懇談会の当日参加コアメンバー5名程度でバランスをとりながら選ばせていただきたいと考えている。大阪ではよろしく願いたい。

(齋藤委員長代理) 今のお話で、核燃料サイクル政策についてご意見を伺うのが中心である。ただし、美浜の事故が起こって、当然参加者の方々はそのことにご関心がある。前半にたとえば30分とか、ある程度時間を区切って報告するなりご意見を伺い、それから本題に入っていただく、というのがよろしいのではないかと思う。もうひとつは、今、新計画策定会議で、まさに核燃料サイクル政策についてご議論いただいているところであり、10月29日の段階でこちらの審議がどこまで進んでいて、大阪で出た意見を我々がどのように斟酌するかということのバランスを考えていかなければならない。

(木元委員) おっしゃるとおりである。コアメンバー会議でも議論したが、冒頭15分から30分の間で基本的には私が報告する。その時には関西電力など当事者はお呼びしないで淡々と客観的な事実だけを報告する。ご意見等出れば対応するが30分以内に終わるようにしたい。

(前田委員) 美浜に関する意見がわっと出てくるのは第2部の方ではないか

と思う。第2部は会場参加者からご意見をお聞きするので、そこで美浜の事故に対するご意見がたくさん出てくると思う。それに対応しなければいけないが、第2部の進め方について事前にある程度の計画を作っておかなければならない。

(木元委員) 及ばずながら私も進行のプロであり、お願いする中村委員もプロである。我々の目的は何かということを説明して進める権限を持っているので、その点はぜひお任せいただきたい。混乱しないように整理をきちっとやる。しんどい作業だと思う。大阪が地元の井上委員にうかがっても、核燃料サイクルの勉強をしても美浜の事故の話になってしまう。10月29日は広聴が目的なので台本を作るようなことはしない。自然体でその時点での事実だけをきちんと把握して臨み、ご意見をうかがいたいと思う。

美浜の事故に関する質問があった時のために関西電力の方をお願いしてスタンバイしていただくという案もあるが、ご意見をうかがうという流れが変わってきてしまうので、基本的にはそのようなことは考えていない。大きなところで「安全」についてどう考えるかについてまとめていきたいという思いはある。

(近藤委員長) 策定会議の議論の進み具合との調整と、市民の方に策定会議で議論されていることをどこまでご理解いただいてご発言いただくのかに関心がある。この点については、二つの考え方、つまり、政策選択の選択肢を提示して市民のご意見をいただく、という考え方と、そうではなく、市民の情報空間において、核燃料サイクルについてどのような問題意識があるのかについて私どもが理解を深める、という考え方があると思う。審議の過程のここに確実にこの成果を反映する、と決めてしまうのは行きすぎだが、これまでの経験からすれば、相互理解という観点で教えられるところが多いが、そういうことを期待しそこに力点をおいて新計画策定会議に対するこの会合の役割とすることにしたらどうか。あまりにテクニカルな核燃料サイクルについての議論をしようとする、ベンチにいる我々の発言の必要性が増大して、会の流れに無理が生じる。

(木元委員) テクニカルな質問にお答えするとか議論に絡めようとする、専門家の方をお呼びしなければならなくなる。基本的に一般市民が考える核燃料サイクルのあり方や、核燃料サイクルをどうしたらいいか、という点に終始したいと思う。公募する際には、新計画策定会議における4つのシナリオを全部お示ししてそれについて意見を公募することになると思う。4つのシナリオを資料としてつけるので、それについて、私は1がいい、

私は２がいい、とおっしゃる方がいるかもしれない。

（近藤委員長）幹事役である吉岡委員や井上委員のように策定会議のメンバーの方もいらっしゃるが、そうでない方もいらっしゃる。幹事役でよくご相談されて適切な資料を考えていただき意見募集されたらよろしいと思う。大変重要なイベントであるのでよろしくお願いしたい。

（２）平成１７年度原子力関係経費概算要求額総表（速報値）について

標記の件について、戸谷参事官より資料２に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

（齋藤委員長代理）２０％の要望額も含めておおよそ全体として前年度並みということは、最終的に相当切り込まれるということになるのか。

（戸谷参事官）その点については、今の時点でどの部分が要望で要求か境目がついていない。それは各省の予算要求内容の中で区分けされている訳ではない。また、一律に大幅に減額されるということではなく、今後それぞれ評価の上予算が決められていくものと理解している。

（３）その他

- ・事務局作成の資料３の第３３回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
- ・事務局より、９月１０日（金）に第４回新計画策定会議技術検討小委員会が開催される旨、発言があった。
- ・事務局より、９月１４日（火）に次回定例会議が開催される旨、発言があった。